

最も愛する人を憎んでしまった

karinomaki

父

私の父は内科医でした。しかし、躁鬱病患者でした。でも、名医だったので、たくさんの患者さんがいました。私も子供の頃、父が大好きで、この世でいちばん尊敬していました。

自殺未遂

父の病気は、定期的に心の波が来る病気で、父の医師の仕事に影響はありません。父はたしかに優れたドクターだったと思います。しかし、鬱（気分の落ち込み）の状態になると、仕事に行くことをいやがり、何度か自殺未遂をしました。私にはそのことは隠されていました。

事件

父は、何度目かの自殺未遂で、家から消えました。入院治療したのです。帰ってきた父と私の関係は、もとの仲のいい親子ではなくなりました。私はある心ない人から、父の病気について、とてもゆがんだ説明を受けてしまったのです。

「パパは、私のことなんてなんとも思っていないんだ！！」と、私は聞かされたのです。精神病は、自分のことしか考えない人がかかる病気だと。

外泊で帰ってきた父は、他人のように見えました。しかし、何故だかわかりませんでした。私は幼かったので、あの言葉によって自分の心が変わってしまったという原因がわからなかったのです。考えてみようともせず、退院してきた父を避け続ける日々を送りました。

父との最悪な関係

次第に父は私を怒り出し、私と父はお互いを深く傷つけあいました。私には、父が私の受験の失敗を望んでいる、という被害妄想まで来て、私の行動は異常になっていきました。

まず、思考が続かなくなりました。そして、「一生後悔するぞ」という心の声が毎日のようになりひびき、家に入る前に、周りのありとあらゆることを確かめました。階段が全て同じ高さであるか、とか、とにかく何か特殊で異常な確認癖ができました。

しかし、それだけではとまりません。頭の中が異常になっていきました。「あれを考える前に、あのことが心によぎった」と、自分が考えたことを一つ一つ振り返り、思い出すまで納得しません。勉強など手につかず、ひたすら自分の思考をわけのわからないやり方で分析する日々です。地獄のようでした。父との関係も悪化の一途をたどり続けました。

異常

私の脳は、完全に崩れかけていました。しかし、救いがありました。

「考えること」「分析すること」です。

自分がなぜそうなったのかわかるほど、その原因を分析するほど大人になっていません。私は高校生になっていましたが。

とにかく、「考えるべきだ」と思いました。自分がさっき何を考えたのか、何をどういう経緯で考えたのか・・・頭の中はわけのわからない分析で占められていきました。

守る

私がなぜそうなったのか、今ならわかります。私は、父が世界でいちばん大事だったので、生きる軸を失くしたのです。だから、考えるべきことの理由と中心を失ってしまったのです。

私はそれでも、考え続けた。わけのわからないことを分析し続けた。それは、私が知っていたからなのです。「考えることによって守る」という、哲学の姿勢を。

私が守りたかったのは、心に父を失って崩れそうな気持ちだったのです。

恋

しかし、私の心は崩壊の一途をたどっていました。何かを守りたい、そうだ、自分の心を守りたい、でも、もうだめだ・・・と思っていた頃、私は、初めての恋を経験しました。私は高校三年生になっていました。

体育祭の練習で一緒のグループになった、同級生に恋をしたのです。

父の面影

その人は、理系で、頭のいい人でした。私はその人の笑顔に惚れました。父の面影はなかったのですが、その人はどことなく父に似ていました。

そして・・・私は初めて、世界を美しいと思いました。人を大切に思う気持ちはこんなに心に息を吹き込んでくれるのかと。

二年の片思い

その人は頭がよかったので、現役で国公立に合格し、すぐに会えなくなりました。心が崩壊していた私は二浪しましたが、二年目の浪人生活は、とても意義のあるものでした。

私は知ったから。片思いでも、人を大切に思う気持ちこそが人生の花であると。

告白

直接の告白ではないのですが、私は受験前に、自分の気持ちにけりをつけようと思い、その人に電話しました。話があるから会ってほしいと。しかし、その人はその日、私との約束をすっぽかしてしまいました。

原因はわかりませんが、おそらくその人は、クラスで特殊な世界にいた私を恐れていたのだと思います。私は泣きながら家に帰りました。

すると、父が・・・「よく帰ってきた！！」と言って私を抱きしめてくれたのです。

いちばん大好きなのは、パパ

私は、涙がすうっと引いていきました。そして、気がついたのです。

私はパパがいちばん好きなんだと。ずっとパパを探してさまよっていた。そして、パパを探しながら恋をしていた。その恋は、パパの幻影だったと。

和解

父は、私から全てを探り出してくれました。
そうか、その言葉をあの人に言われたのが原因かと。

しかし、父は、私が父を憎む発端となった、その人を許しました。私も許しました。
しかし、ほどなく私は発病しました。

父と同じ精神病。しかし、病名は、幻覚、幻聴のある、統合失調症でした。

守りたい

私と父の幸せは、私の発病のために、4か月で消えました。しかし、私は発病したことについて、考えます。今だからわかることです。

私は何かをずっと守りたかった。そして、守りきれなかった。でも、がんばったと。一生懸命生きた！！と。それこそが生きる勲章だと。

今、天国にいる父に、私は今も守りたいよ、と心で伝えていきます。大切なものをつくりたい人生だよと。守りきれなくてもいい、だって、パパ、仲直りしたあの4か月は、最高に楽しかったね。私が頑張ったことは、あの時間で報われたね、と。